

「道徳の時間」学習指導案

三次市立甲奴中学校
教諭 長内三和子 (T1)
教諭 山下 国人 (T2)

- 1 日 時 平成 24 年 7 月 6 日 (金) 第 5 校時
2 学 年 第 2 学年 男子 14 名 女子 13 名 計 27 名
3 主題名 友達としてのあり方 (内容項目 2 - (3))
4 本時のねらい

夢に近づくチャンスを選ぶか、親友との誓いを選ぶか、葛藤する雄一の思いを考えることで、親友と共に高め合うことの大切さ、心から信頼しあえる関係を育む大切さを理解し、「真の友情を」を築こうとする態度を養う。

- 5 資料名 「甲子園でプレーがしたい」 道しるべ 2 正進社

6 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は中学校学習指導要領の道徳の内容 2 - (3)、「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う」を基に設定した。

中学生の時期は、互いに心を許し合える友達を真剣に求めるようになる。また、親からの自立を始める発達段階にあることから、家族よりも友達の存在に大きく影響を受ける傾向がある。特に、部活動で共に汗を流す仲間が、同じ目標に向かって切磋琢磨する親友に発展するケースは多い。しかし、一方で、過度に同調を求め、友達との関係を気まずいものにしないために、言いにくいことを言わずに濁していたり、本意ではなくても、相手に合わせたりすることも多い時期である。相手の成長を願い、互いに励まし合い、協力を惜しまない相互関係を築くことの大切さ、そのためには時には言いにくいことも指摘できる信頼感が真の友情につながることに気付かせ、自分の友情観について、深く考えるきっかけとしたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、全体的には、人間関係のトラブルは少ない。勉強や部活動なども、仲間と一緒に頑張ろうという意識の高い生徒も多い。一方で、気の合う仲間とその他のクラスメイトとの境界線がはっきりし、グループ化傾向は否めない。その中で、自己主張の強い友人に対して、遠慮したり、言いたいことが言えず、ストレスを溜め、陰口に発展することや、気が進まなくても、相手に同調する傾向があるため、一緒に部活動を休んだり、試験前に遅くまで遊んでしまったりと、互いにとってマイナスになる行動をしてしまうこともある。

また、テストの結果や、部活動の結果などで、仲間の成功に対して嫌味を言ったり、反対に、相手の失敗を嘲笑したりという態度も見られる。

【対話活動についての課題】

本学級の生徒は、道徳の授業に真面目に参加しているが、教師の発問に対して、一部の生徒が活発に発表をし、他の生徒は疑問に思うことを質問したり、賛同・反論することがないため、一部の生徒の意見が中心となって、授業が進む傾向がある。よって、他の生徒は、意図的指名に答える以外は、何も発言しないまま、ワークシートに感想を書いて終わることもあった。葛藤資料を使ってグループで協議させても、その主張の強い生徒たちの意見に他の生徒たちが流されてしまう傾向が強かった。ワークシート上では、よく考えて自分なりの意見を書けているので、それを全体の中で出してほしいと意図的指名をするが、抵抗感を露わにする生徒もいる。授業後のワークシートを見ても、ほとんどの生徒がたくさんの感想を書くことはできるが、他の意見に影響を受けて考え直したという思考の深まりや価値の変容が見とれる感想は少ない。

よって、指導者は受容的な雰囲気をおこし、生徒に、一人一人が意見をもって話合いに挑み、その異なった考えがあるからこそ自分の思考が深まった、より高い価値に気付く、自らの価値観の変容を実感できる対話活動を体験させる必要がある。

(3) 資料観

本資料は、主人公の雄一が、親友の義男と小学校時代からバッテリーを組み、共に地元の高校に進学し、そこで甲子園をめざすことを約束していたが、雄一にだけ、県外の甲子園常連校である R 高校から推薦入学の話がきたという設定である。R 高校を選ぶか、友人との誓いを選び、地元の高校に進学するかで悩む雄一に共感し、生徒たちに葛藤を引き起こさせる内容である。

どちらを選択したとしても、親友としてどうあるべきか、お互いに高め合うとはどういうことなのかを考えられる内容であり、また、義男の立場に立って考えることによって、生徒はより深く「真の友情とは」、「それを築くためには何が大切か」を考えることが期待できる。

(4) 指導観

「雄一は R 高校へ行くべきか、それとも義男と地元の高校へ行くべきか。」を中心発問として対話活動を進める授業展開とする。まず、第一判断をした後「対話活動Ⅰ (聴き対話)」で、ペアで互いに「問いかけ」をし、自分の考えを明確にもつ。次に「対話活動Ⅱ」でグループ対話を行い、4人全員の意見をホワイトボード上にまとめ、比較・検討し、新たな「問い」を作りながら議論を深めていく。また、教師が義男の視点から考えさせる「切り返しの問い」をすることで、残される立場の者の複雑な心境を想像し、真の友情を築くためには、相手の気持ちを考えること、深い信頼感、お互いが励まし合い、高

め合おうとする姿勢の大切さに気付かせたい。「対話活動Ⅲ（高め対話）」では、個々の生徒の最終判断の理由を交流し、高まった価値観に触れることで、生徒個々の価値観の変容を目指し、「対話活動Ⅳ（見つけ対話）」で、その価値観を基に、最後に自分と向き合う時間を確保する。全体を通して、活発に発言する生徒だけでなく、一人でも多くの生徒の意見を生かせるよう、机間指導をしながら、グループの対話内容をしっかり把握していきたい。

7 学習の流れ

過程	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点 (◇) 評価 (☆)
導入	1 親友とは、どんな存在の人か発表する。	○「親友」ってどんな存在の人だろうか。 ・一緒にいて楽しい。 ・趣味が合う。 ・相談にのってくれる。	◇本時の学習内容について関心をもたせる。
展開前段	<p>2 資料「甲子園でプレーがしたい」を読んで話し合う。 (1) 雄一と義男の友情関係の深さを考える。</p> <p>(2) R高校に誘われた時の雄一の気持ちを考える。</p> <p>(3) 雄一はどうすべきか、理由とともに考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">自己内対話① ワークシート①に記入</div> <p>(4) 相手の「問い」に答えながら、自分の考えを明らかにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>対話活動Ⅰ 「聴き対話」</p> <p>↓</p> <p>自己内対話② ワークシート②に記入</p> </div>	<p>○二人はどんな友達だろう。 ・小学校からの親友。 ・同じ夢へ向かう同志。 ・しんどい時も一緒に頑張ってきた。 ・大切なパートナー。</p> <p>○R高校へ来てほしいと言われた雄一はどんな気持ただろう。 ・うれしい。 ・自分の力が認められた。 ・甲子園出場の夢がかなうかもしれない。 ・義男のことを思うと複雑。</p> <p>◎雄一はどうすべきだろうか、なぜ、そのように考えますか。 R高校へ行くべきだ。 ・夢がかなう可能性が高いから。 ・プロへの道も拓かれる。 ・義男も分かってくれる。</p> <p>義男と一緒に地元の高校へ行くべき ・絶対甲子園に行けるとは限らない。 ・義男との誓いをやぶることになる。 ・義男との友情がこわれる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>予想される問答</p> <p>Q: どう思う? A: R高校に行った方がいい。 Q: どうして? A: 甲子園出場の夢が近づくから。 Q: 義男との約束はどうする? A: 義男もわかってくれるよ。 Q: 本当に?なんでそう思う? A: 友達なら応援してくれるはず。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>他に予想される問い</p> <p>Q: R高校に行けば、絶対甲子園に行けるの? Q: もし、地元の高校に行けば、どうなる? Q: 地元の期待はどうなる? Q: 義男にはどう言う?</p> </div>	<p>◇長い間バッテリーを組んで、厳しい練習も共に切磋琢磨し、乗り越えてきた絆の強さを想像させる。</p> <p>◇電子黒板を使って、甲子園球場や高校球児の写真を見せ、イメージをもたせ、雄一の甲子園に対する憧れの強さを想像させる。</p> <p>◇自分の判断と理由を、ワークシートに書かせることで、対話活動へ備えさせる。 ◇胸元には意志表示を色で示す付箋を貼り、周りの生徒からもわかるようにさせる。</p> <p>◇「問いかけシート」を使って、互いに理由を聴き合い「問う」ことで、より深く考えさせ、自分の考えを明確化させる。</p> <p>◇ワークシートに記入することで、自己内対話の結果としての意志を明確化させる。</p>

	<p>(5) グループで意見を出し合い、様々な意見に触れながら、自分の考えを見直し、再構築する。</p> <div style="text-align: center;"> <p>対話活動Ⅱ 「深め対話」</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>自己内対話③ ワークシート③に記入</p> </div> </div> <p>(6) 互いの最終意見とその理由を聞きながら、高い価値観に気付き、自己の価値を見直す。</p> <div style="text-align: center;"> <p>対話活動Ⅲ 「高め対話」</p>  </div>	<p>R 高校へ行くべきだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢がかなう可能性を選ぶのは、当然だから。 ・一生の問題だから。 ・義男も同じ夢をもっているから、応援してくれるはず。 <p>義男と地元の高校へ行くべきだ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R 高校に行くと、義男に対する後ろめたさが残る。 ・義男とこれまで永い間築いた友情が崩れる。 ・R 校で甲子園に行けなければ、夢も友情も失うことになる。 ・自分の夢だけを優先してはいけない。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>予想される問い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R 高校に行くと、義男との友情が崩れるのか。 ・R 高校に行かなかったら、雄一は後悔しないか。 ・義男に何と言えば分かってもらえるか。 </div> <p>○義男の立場に立って考えよう。</p> <p>もし雄一がR 高校に行けば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うらやましい。 ・自分との約束が破られて悔しい。 ・雄一の判断だから仕方ない。 ・親友が夢に近づくのか嬉しい。 <p>地元の高校に行けば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分との約束を選んでくれて嬉しい。 ・自分に気を使ったのではないか心配。 ・甲子園の夢をあきらめてほしくない。 <p>○自分たちの議論した内容を振り返って、どのように判断しましたか。それはなぜですか。</p> <p>R 高校へ行くべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちをきちんと伝えれば、義男はわかってくれる。 ・本当の友達なら、必ず応援してくれる。 ・遠慮して義男に合わせることは、自分にとっても、義男にとってもマイナスだ。 ・自分が夢に向かって頑張ることが友人の励みにもなる。 <p>地元の高校へ行くべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人のバッテリーで甲子園をめざせる。 ・二人で今まで以上に練習を頑張るから、友情も深まる。 	<p>◇構成メンバーの中に違う判断の生徒を入れることで、雄一の葛藤について「深く」考えさせる。</p> <p>◇それぞれの意見を確認できるように、ホワイトボードを使用し、新たな「問い」を作り易くさせる。</p> <p>◇新たな「問い」を主体的に作って議論させることで、さらに深く考えさせる。</p> <p>◇切り返し発問で、義男の立場に立たせることで、その複雑な胸中を想像し、相手のことを思いながら義男としての判断を考えさせる。</p> <p>◇全体の場で最終判断とその理由を交流することで、「真の友情」にとって何が大切かを全員に考えさせる。</p>
<p>展開後段</p>	<p>(7) 学んだ価値観を基に、自分の経験を振り返り、これからの自分に生かす思いをワークシートに記入する。</p> <div style="text-align: center;"> <p>対話活動Ⅳ 「見つめ対話」</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>自己内対話④ ワークシート④に記入</p> </div> </div>	<p>○今日の授業で学んだ「友情」について、自分のことを振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒にがんばれる友達をつくりたい。 ・友達がテストでいい点をとって、ねたむ気持ちがあった。一緒に喜べるようになりたい。 ・友達に遠慮して、無理に合わせることはあった。自分の考えもきちんと言えるようになりたい。 	<p>◇ワークシートに、書かせることで、自分のこれまでの友情観を見つめさせ、今後の道徳的実践につなげる。</p> <p>☆「友情」について、道徳的価値の自覚が深まっている。</p>
<p>終末</p>	<p>3 教師の説話を聞く。</p>	<p>○自分にも、友達の成功を素直に喜べなかった経験があったことを話す。</p>	



「甲子園でプレーがしたい」

氏名 _____

①自分の意見とその理由を書こう

R 高校に行くべき

義男と S 高校に行くべき

(ペア対話メモ)

②ペア対話をふまえて、自分の意見と理由を書こう。

R 高校に行くべき

義男と S 高校へ行くべき

(グループ対話メモ) 心に響いた言葉・深く考えた問い

③グループ対話をふまえて、自分の意見と理由を書こう。

R 高校に行くべき

義男と S 高校へ行くべき

④今日、学んだことをもとに、自分自身に問いかけてみよう。

「問いかけ」ポイント

- 大切なことは何？
- これまでの経験の中で、思い出すことはある？
- その時の自分はどうだった？
- そうして良かった、悪かった？
- 今の自分なら、具体的に、何ができるかな？
- これからは、どうしたい？